



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校 令和8年6月30日

～3つの大切～

- 自分から考え、行動しよう
- 自分もみんなも大切にしよう
- あきらめないでやりきろう

7月号

「生きる力」を育むために：安心感と自信の育て方

校長 山根 淳一

夏の始まりともいえるプールを使用した水泳授業がスタートしました。保護者の皆様には、その準備や毎朝の健康チェックとリーダー（健康観察アプリ）への入力にご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、これからの社会では、学力だけでなく、やり抜く力や思いやりといった「非認知能力（生きる力）」が重要となります。子供たちが安心して成長できるよう、学校と家庭が連携して取り組みたい大切なポイントをまとめてみました。

1. 心を伸ばす「褒め方」と「叱り方」

①存在そのものを認める

「あなたがいてくれるだけで嬉しい」という無条件の安心感を与えることが、すべての挑戦の原動力（心の土台）になります。

②結果ではなく「プロセス（努力）」を褒める

「頭が良いね」ではなく、「最後まで頑張ったね」「工夫したね」と努力のプロセスを褒めましょう。失敗を恐れず、自ら成長していく力が育ちます。

③叱るときは感情を抑え「1分以内」に

長時間の説教は、子供が本質を見失う原因になります。伝えることは1分以内に短くまとめ、具体的な対処法を教えましょう。大人がイライラしたときは一呼吸置き、冷静さを取り戻すことが大切です。

2. 「役に立っている」実感が自信といじめ防止に

「自分は誰かの役に立っている」（自己有用感）という実感が自信につながります。家庭や学校で一人一人に役割と居場所をつくり、感謝し合うことで、子供は強い自信をもちます。お互いを認め合える集団をつくることは、いじめを未然に防ぐ強力な防波堤にもなります。

3. ご家庭でできる4つの「伴走」アクション

休み明けや行事の前後など、子供がストレスを感じやすい時期こそ、ご家庭での以下の関わりが大きな支えになります。

- ① 最後まで話を聴く：子供の言葉を遮らず、じっくり耳を傾ける。
- ② 役割と感謝：お手伝いを任せ、完璧でなくても「やってくれてありがとう」と伝える。
- ③ 良い行動の共有：誰かのために動いた素敵な行動を、家族みんなで共有する。
- ④ 存在への感謝：日頃から「あなたがいてくれて助かるよ」と言葉にする。

子供たちが「自分は必要な存在だ」と自信をもって未来を切り拓いていけるよう、学校・家庭・地域が一体となって温かく寄り添っていると幸いです。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

